

栃木県原水協ニュース

No 185号 2018年12月1日
 原水爆禁止栃木県協議会
 〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30
 栃木県労連気付 電話 028-653-1401
 メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

栃木県原水協 第43回定期総会開かれる



十一月十七日(土) 上三川いきいきプラザに於いて、原水爆禁止栃木県協議会第43回定期総会が、30数人の参加で開催されました。

第一部の被爆者のお話と交流では那須烏山市在住の小松宏生さんより、講演と対談形式で、被爆体験やその後の人生を生々しく、元気がいっぱいにお話ししていただきました。(当日はもうひとかたの被爆者の方のお話をいただく予定でしたが、都合で出席できませんでした。)

第二部の総会では、天谷代表委員の開会あいさつの後、新婦人県本部の藤木智恵子さんが議長選出され、議事が進行されました。

第1号、第2号議案の質疑・討論の中で、7名の方々から活動報告や貴重な経験を発表していただきました。

その後、二〇一九年度の役員選出を含む全議案が承認され、阿波長次栃木県労連議長の開会あいさつで予定通り終了しました。

小松さんのお話要旨

◆被爆直後の様子
 六年生の時、爆心地から20キロ程の所で疎開しているお寺で原爆の閃光と爆音を耳にする。「何じやろうね? 太陽がぶつかったんだよ」と話しかけていた。大やけどで皮膚がぐちゃぐちゃになり、指の先で皮膚が垂れ下がった状態で市内から歩いて避難してきたある家族は、当日、寺で苦しんで死んだ。広島市内の野戦病院のような、やけどをした人々や死人の沢山いるテントの中を母親と父親を探しまわったが見つからなかった。後で知ったのだが、父親のいた原爆ドームの隣のビルは跡形もなく吹き飛ばされていた。



◆広島から宇都宮へ
 母親の実家のある宇都宮へやつの思いでたどり着いた。12月の凍えるような寒さの中、命がけで無蓋の貨物列車に乗って帰る途中、貨車から見た富士山の美しかった姿は強烈な印象として、70年以上経った今でも忘れられない。

◆被爆者として生きる

被爆者に対する偏見差別はひどかった。被爆者であることを隠さねばならなかった。ずっと後になって大変苦労して被爆者手帳をとった。数少なかった被爆者として、被爆の実相を語り始め、昨年から多くの場所で引っぱりだこである。戦争をなくするため、核兵器をなくすため、語り続けたい。

◆「長崎の郵便配達」(訳本)紹介

長崎で被爆した英国人の父親が海水浴をしていた背中を肌をみて、恥ずかしいと言った子どもたちに、原爆のひどさについて語り、「自分のせいではない、全くとくなくない」と言って諭す場面の一部を朗読してくださいました。

◆活動報告他

○新婦人宇都宮支部では、毎年、市に要求して買って貰った原爆パネルを使って、パネル展や、映画上映を行っている。今年も沖縄戦時、県民の避難・保護に尽力した宇都宮の郷土誇りを荒井退造の「生きる」を上演。パネル展では、オダネル氏の「焼き場の少年」のパネル写真を見た80歳代の人は自分の体験と



宇都宮市郷土の誇りを荒井退造の「生きる」を上演。パネル展では、オダネル氏の「焼き場の少年」のパネル写真を見た80歳代の人は自分の体験と

「ヒバクシャ国際署名」数

諸団体	協水原北	2,660筆
	協水原南	1,02筆
	協水原宇都宮市	1,232筆
	会核の	1,78筆
	会婦人の	7,769筆
	連医民	2,072筆
	会協医保	396筆
	協水原	134筆
	会推進委員	140筆
	会野市下核非	264筆
自治体	連労	23筆
	会委員和	54筆
	市光	953筆
	市野	494筆
	市木	81筆
自治体	市山	109筆
	市川	160筆
	町生	165筆
合計	(11/30 現在)	16,986筆



最後に、阿波長次議長より、「核兵器禁止条約に署名・批准するような政府に一刻も早くするために頑張ろう!」との力強いあいさつで、予定の内容を終了して閉会しました。



その他○市民連○県北原水協、那須町原水協○鹿沼市原水協など

重ね合わせて涙を流し、パネル展に感謝してくれた。6・9行動を通して更に仲間を増やしていきたい。

2019年3・1ビキニデー集会に参加しよう!

日時: 2019年2月28日(木) 日本原水協全国集会

3月1日(金) 3・1ビキニデー集会